

魅力ある教育環境づくりに向けて

子どもたちのために魅力ある教育環境を

市教育委員会では、2015年11月に登米市立小中学校再編基本方針を策定し、市内小中学生の保護者、地域住民との座談会や保護者アンケートを実施。再編の必要性や考え方、進め方などさまざまな意見をいただけてきました。これらの意見を踏まえ「登米市立小中学校等再編構想」を本年3月に策定。5月以降は、各町域で座談会を開き、意見交換をしながら、より良い教育環境の充実に目指してまいります。

学校再編の基本的な考え方
〈適正規模〉
 小学校：12～24学級 / 中学校：6～18学級 / クラス替えができる各学年2学級以上
〈適正配置〉
 小学校：町域に1校は配置 / 中学校：当面は町域に1校は配置しますが、再編する場合は町域を越えて検討。再編に向けた課題整理を実施
〈通学時間〉
 スクールバスを活用した場合を含め、おおむね1時間以内

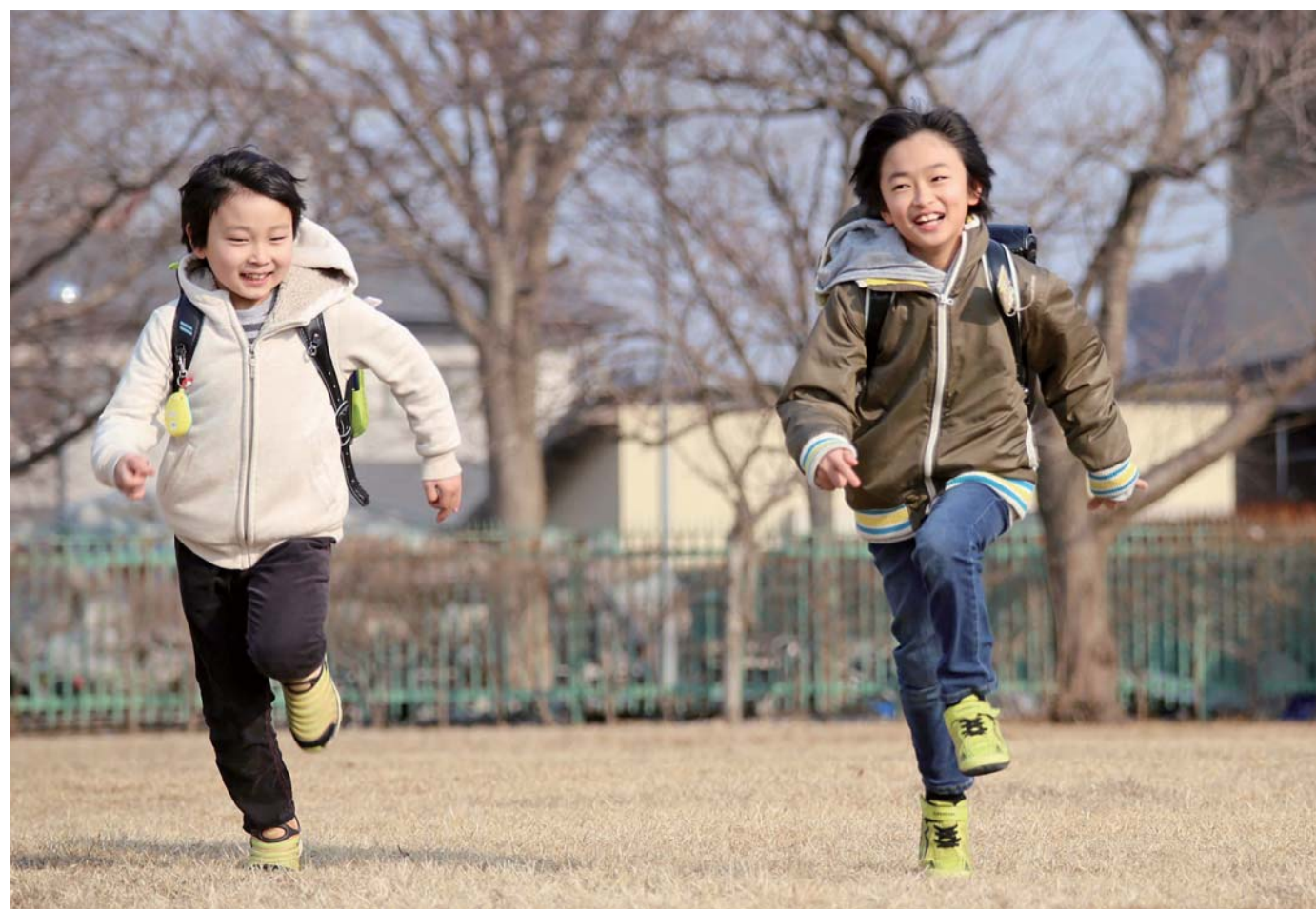
座談会の意見を取り入れ再編構想を策定

基本方針策定以降、昨年1月に市内全町域で実施した地域座談会において、保護者や地域住民から再編の時期、通学時間、教育の質の向上などについて意見をいただき、再編構想を策定しました。昨年10月には保護者アンケート

を実施。「たくさんの方と出会い、勉強や部活動ができるような環境にしてほしい」「たくさんの方たちの中で切磋琢磨し、生きる力を養ってほしい」という意見のほか、校舎の活用や再編を進める際に配慮してほしいことなど、さまざまな意見をいただきました。一方で「地域に学校がなくなるのは寂しい」という地域からの要望も見えてきました。また、登下校時の安全確保やスクールバスの充実に対する要望が多く挙げられました。

複式学級規模の解消と各学年2学級以上を目指す

これらを受け、市教育委員会では、地域へ丁寧な説明し、理解を得ながら、学校施設や通学環境の充実に目指します。また、環境の変化に伴い児童生徒が感じる戸惑いや不安を和らげるために、学校間の交流活動も実施することとしています。



市内小学校の児童数推移の予測

町域	小学校	2018年度	2028年度	2038年度
迫	佐沼	673人	714人	596人
	北方	188人	152人	127人
	新田	139人	114人	87人
登米	登米	201人	155人	129人
	米谷	101人	73人	61人
東和	錦織	73人	43人	36人
	米川	60人	49人	41人
中田	石森	105人	84人	70人
	加賀野	319人	223人	186人
	宝江	120人	113人	94人
	上沼	170人	105人	88人
豊里	浅水	86人	55人	46人
	豊里	348人	278人	232人
米山	米岡	127人	57人	48人
	中津山	155人	116人	97人
	米山東	168人	101人	84人
石越	石越	200人	159人	133人
	南方	191人	123人	103人
南方	西郷	89人	83人	69人
	東郷	148人	156人	130人
	柳津	80人	34人	28人
津山	横山	64人	30人	18人
	計	22校	3805人	3017人

小学校と学年単学級の小学校を早期の再編対象とします。中学校は、生徒数の状況などにより、再編が必要となる場合、町域を越えた再編も検討しますが、当面は各町域に配置します。なお、再編に向けた課題整理も併せて実施していきます。今後は、町域ごとに座談会を開き、意見交換しながら地域別再編実施計画の策定を進めていきます。



詳細は登米市公式ホームページをご覧ください

小学校の再編方針

地域	再編方針
津山	2校の統合
東和	3校の統合
米山	3校の統合
南方	3校の統合
中田	段階的に統合(※1)
迫	佐沼小を含めた統合(※2)
登米・豊里・石越	中学校再編と併せて検討

※1：既存校舎1校への統合は困難であることから段階的な統合も検討
 ※2：北方小と新田小の統合を検討し、将来的には佐沼小を含めて検討

これまでの経過と今後の進め方

